

本書の使い方

学習指導要領で示された、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿った各単元の目標と、関連する主な言語材料を記しています。下線は、新出の表現を示しています。

各単元で想定されている授業時数を示しています。

各活動のねらいや内容、指導上の留意点について記載しています。授業の準備などに活用ください。

We Can! ①の誌面です。児童が実際に書き込んだり、これをもとに活動を行ったりします。

Unit 4 What time do you get up?
一日の生活

単元目標
・一日の生活について聞いたり言ったりすることができる。また、活字の小文字を書くことができる。
・一日の生活に関するまとまりのある語を聞いておおよその内容を捉えたり、一日の生活について伝え合ったりする。
・他者に配慮しながら、自分の一日の生活について伝え合うとする。

言語材料
○What time do you (get up)? I (usually) (get up) at (7:00).
○always, usually, sometimes, never, at, 子伝いの表現 (wash the dishes, set the table, walk my dog, clean my room, get the newspaper)
[既出] 日課、数 (1-60)、動作、曜日、スロップ、教科

このUnitで学習すること
日課・頻度の表現と小文字の書写

友達や何時に起きて何時に寝るかなど、児童があまり気にすることはないと思われる。一方で、家庭科では「家庭生活と分担仕事」や「生活時間の有効な使い」などが、道徳においては「生活習慣の大切さを知る」や「家族みんなで協力し合い、進んで役に立つことをする」などが扱われている。これらと関連付け、本単元では、日課や家庭での手伝いを取り上げ、自分たちの生活を見直すきっかけになればと思う。

本単元では、日課を表すさまざまな表現とともに、always, usuallyなどの頻度を表す語も学ぶ。頻度の概念と英語表現を結びつけることは、児童の発達段階から難しい点もあるが、できるだけ本単元の情報をやり取りするという意味で大切にしたい。特に、家での役割を伝え合う場合、「いつもお手伝いしているわけではないけれど、週末になるとどきどきはしている」という状況がよくある。ただ単にYes/Noで答えるよりは、伝えたい内容に沿うという意味で実情に近いものが伝えられるだろう。

単元最後では、自分の日課や友達に伝えたい家での役割などを、頻度を含めた活字活動を設定している。児童それぞれに異なる日課があり、家での役割があるということに気付きながら、その情報をしっかりと受け止めて聞く姿も、本単元で目指すものである。そうやって得た友達の家での役割についての情報を、自分の生活改善につなげたい。

また、文字の指導は、本単元で聞き取った小文字をワークシートに書く活動を、その際には、単元を通して行う。文字は、aから順番ではなく、4歳での文字の高さ「1階建て」「2階建て、中2階建て」「地下1階」の順に書いていく。また、h, d, p, qの鏡文字は、それらをあえて同時に扱い、比較しながら書く練習をすることで、理解を深める。

さらに、自分のことについて、音声で十分慣れ親しんだ単語から適切なものを選び、文の一部に貼る活動も行う。実際に、単語ペルの英語を書く活動は次単元以降を待ち、まずは必要な単語を選び、貼るというスムーズなステップをここでは踏んでいる。

指導の流れ (全8時間)

- 1 本単元での学習内容を想起する (1時間)**
冒頭の見開きページでは、朝起きてから寝るまでの日課を、子供を取り囲むようにイラストが表している。児童はその英語表現に興味をもつことだろう。また、チャンドでその言い方を学び、デジタル教材で外国の子供の様子を知ることが、内容に興味をもたせ、学習内容に出会わせることにつながる。
- 2 日課の表現と頻度を結び付ける (3時間)**
頻度の表現 (always, usually, sometimes, never) に出会い、ボイディングゲームで十分慣れ親しんだあと、時間も含めた日課と結び付ける。家での役割に関して、その頻度を考えながら伝え合うことで、頻度を表す言葉への理解を深める。頻度の語を加えることで、より正確に情報を伝えられることを感じさせたい。
- 3 家での役割を聞いて取り尋ねたりする (2時間)**
先生や友達の日課や、外国の子供の家での役割について知り、自分の違いや共通点を見だし、人それぞれの生活があることに気付く。その一方で、友達の日課や家での役割を聞いて、自分の生活を見直すきっかけにもしたい。家庭科や道徳の時間との関連を考えた活動の工夫も考えられる。
- 4 自分の日課について発表する (2時間)**
単元を通して慣れ親しんだ表現を使い、相手意識をもって、自分の日課を頻度も含めて発表できるようにする。また、STORY TIMEでは、Kazuが教科書をもったいない転校生Mariaに、教科書を送ってあげる場面が描かれている。Kazuの優しさがMariaの緊張を和らげる温かい場面である。

各単元の特徴やねらい、指導上の留意点を解説しています。単元に入る前に読むことで、その学習内容の全体像を理解することができます。

各見開きの授業時数とねらいを詳しく説明しています。各単元の目標を達成するために、それぞれがどのような意図をもって構成されているのかを把握できます。

Let's Watch and Think 1
世界の子供たちの様子デジタル教材で視聴し、分かったことを発表する。

① この見開きページには、デジタル教材を視聴する際にヒットになるような写真などはないので、いきなり動画の視聴をするのではなく、あらかじめ児童に日常生活を考えさせ、自分が当たり前だと考えていることが、世界ではどうだろう、と話題を振ってもよい。学校に集まっているALTあるいは身近な外国地の友達の学校生活の具体例 (給食と終業時間、給食、宿題の多さ、飛び級など) を挙げて紹介してもよい。キッズ外務省のホームページなどを参考にしてもよい。
*外務省ホームページ (キッズ外務省) 「世界の学校を見てみよう!」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/kuni/index.html>

② 映像ではスペイン、モンゴル、フィンランドの子供たちの生活が簡単に紹介されるが、ここでのねらいは、スペインでは昼寝をするとか、モンゴルにはハルビに住む少数民族がいるといったステレオタイプなイメージを教えることではない。本単元で学習する一日の生活や家での自分の役割を考え、その情報をどう尋ねたり伝えたりするかということへの興味・関心を高めることにある。しかし、違いがあるからこそお互いの情報を交換し、理解し合うことが大切な視点の一つでもある。そのことが他者理解につながる。世界の子供たちがそれぞれ異なる文化を背景にさまざまな日々を送っていることに気付く機会にもなる。

③ 最初は、通して映像を視聴させ、情報を全体として捉えるようにする。2回目視聴するときには、国ごとに映像を見て、どんなことをしているか、また日本でも、同じような日課 (スペインの昼寝など) があるのかを考えて発表させるようにする。

④ この段階で、日課の言い方を導入することも考えられる。その際には、以下のような活動が考えられる。
指導者は、自身の日課について動作カードを見せながら、I get up at six. I eat breakfast about six thirty. などと紹介し、日課の動作を表す語句を児童に何度も聞かせるようにする。その際には、一方的に紹介するのではなく、児童にWhat time do you ~? At six? At seven? などと質問を投げかけながら行うとよい。ここでいきなり児童に発音を求めるとはなく、十分にインプットすることがねらいである。

Let's Chant: What time do you get up?
音声に合わせて何度も聞いたり言ったりして、表現が使えるようになる。
① 最初は一度ゆっくりバージョンで聞き、何が聞こえたかを確認する。
② 何度か繰り返し、パートを分けて、半分の半分あるいは誰かに役割を分けて言うようにする。
③ ゆっくりバージョンに慣れてくれば、速いバージョン、またはカラオケバージョンにして、十分に音声に慣れ親しませる。

指導者の表現例
Let's watch and think. (見て考えましょう。)
What do you think? (どう思いましたか。)
Talk with your partner. (隣の人と話し合しましょう。)
Please tell me your idea. (考えを発表してください。)

スクリプト
Let's Watch and Think 1
① In Spain people take a siesta every day. We say *hirune* in Japanese. Children at school have a siesta, too.
② Some Mongolians live in a ger. A ger is a big tent. The families live in the ger. They keep cows and other animals.
③ Finland is in Northern Europe. In summer the sun comes up about three o'clock in the morning and sets about nine o'clock in the evening. In winter the sun comes up about nine o'clock in the morning and sets at three o'clock in the afternoon. School starts in the dark in winter.

Let's Chant: What time do you get up?
What time do you get up?
What time do you get up?
I get up at six. (Oh, I see.)
I get up at seven. (Oh, me, too.)
What time do you do your homework?
What time do you do your homework?
I do my homework at eight. (Oh, really?)
I do my homework at nine. (So do I.)
What time do you brush your teeth?
What time do you brush your teeth?
I brush my teeth at nine thirty. (Really?)
I don't brush my teeth at night. (Oh, no! That's bad.)

付属のデジタル教材に収録されている音声のスクリプトを記しています。主として、Let's Listen / Watch and Think / Chant / Sing, STORY TIMEです。

各単元で指導者が使える表現例です。活動に合わせて使ってみましょう。記載されているQRコードを読み込むことで、音声を聞くこともできます。

注意点

- ① スクリプトが多くて該当する見開きのページに入らない場合は、やむを得ず別のページに掲載しています。
- ② 掲載された誌面に含まれていないもの (追加の活動や、①のような他のページで入りきらなかったスクリプト) は、授業中に使用する際の視認性を高めるため、通常の赤い見出しに対して、黒い見出しで掲載しています。

1 Hello, everyone.

アルファベット・自己紹介

単元
目標
(8時間)

- 好きなもの、欲しいものなどを聞いたり言ったりすることができる。また、活字体の大文字を識別し、読む（発音する）ことができる。
- 自己紹介を聞いて分かったり、好きなものや欲しいものなどを伝え合ったりする。
- 他者に配慮しながら、簡単な自己紹介をしようとする。

言語
材料

- Hello, I'm (Saki). Nice to meet you. My name is (Kosei). How do you spell your name? K-o-s-e-i. I [like / don't like] (blue). What (sport) do you like? I like (soccer) very much. I want (a new ball).
- nice, to, meet, spell, new, very, much, class, badminton, chocolate, lettuce, name, animal, watch, think
- [既出] 挨拶・自己紹介、活字体（大文字、小文字）、色、飲食物、果物・野菜、動物、数、スポーツ

このUnitで学習すること

自己紹介と名前のスペル

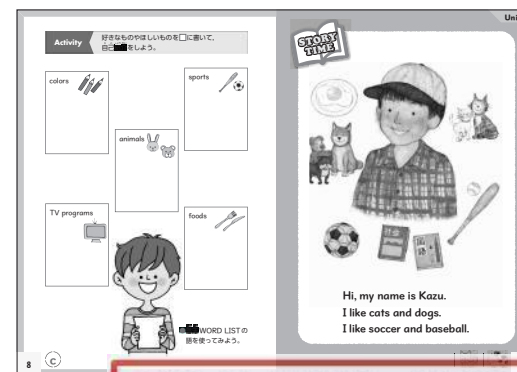
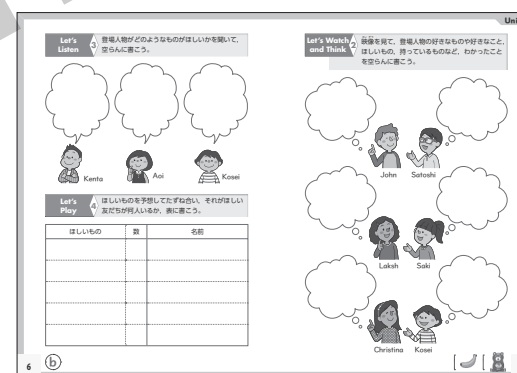
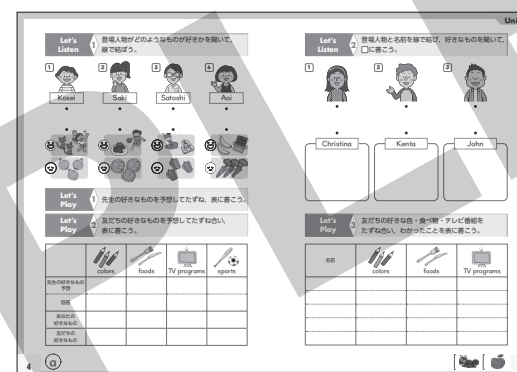
教科として初めて英語を学ぶ本单元では、児童は、まず世界で活躍している日本人を知り、自分たちの未来は世界に向かって開かれていることを実感する。さらに、国内においてもすでにさまざまな場面で外国語（英語）が使われていることに気付くであろう。そのうえで、本单元では、中学年で慣れ親しんだ語彙や表現を使って自己紹介をすることを目標としている。

自己紹介において、自身の名前は、自分のことを人に伝える際にたいへん重要である。しかし、日本人の名前の音になじみの薄い外国の人には、聞き取りにくいこともある。したがって、スペルを言いながら名前を伝えることは、自然なことであり、自身の名前を通して文字と出会うという点からも、児童が文字をより身近に感じられると思われる。大切な名前を相手に伝える目的をもち、「必然性」の

あることとして文字指導を行い、大文字とその名称を、歌やカードを使って丁寧に指導する。

自己紹介は、相手とのやり取りを重ねることで情報の内容を深めていく。まず、中学年で慣れ親しんだ What ~ do you like? や、What do you want? などの表現を、デジタル教材を通して学ぶとともに、さまざまな活動を通して自己紹介の内容を考える。先生に質問をする活動では、先生の答えを予想させ、先生の答えに興味をもって聞き取ろうとする姿勢を育てたい。また、先生の答え方や内容が、そのうち、児童が行う自己紹介のモデルとなる。単元の最後では、学んだ表現を使って、伝えたい内容を一番上手に伝えられるように、まずペアで発表し、アドバイスをし合ったうえで、みんなの前で発表する、といったスモールステップを踏んだ指導を心がけたい。

指導の流れ（全8時間）



1 教科英語としての目標を想起する（1時間）

デジタル教材の視聴を通して、科学やスポーツの分野で世界的に活躍する人物のことを知ったり、身の回りで外国語（英語）がすでにたくさん使われている場面に気付かせる。これから児童が生きていく社会の中で英語を学ぶことの意味を考え、これから始まる英語学習に期待をもたせたい。

2 好きなものを聞き取り、伝える（2時間）

登場人物の好きなものを聞き取り、線で結んだり、書き込む活動をしたりする。また、身近な先生について、好みなどの予想を立てたうえで質問をする。さらに、ペア活動を通して友達の好きな色、食べ物、テレビ番組、スポーツを尋ね合うことで、自信をもって発話ができるようになることを目指す。

3 欲しいものを聞き取り、伝える（3時間）

音声聞いて、登場人物の欲しいものを聞き取ったあと、実際に教室の友達はいったい何が欲しいのかと考えながら、インタビュー活動を行う。またデジタル教材で実際のやり取りを視聴することで、会話全体の流れを理解し、情報を聞き取ることができるようにする。これらの活動が単元最後の自己紹介の内容を豊かにすると思われる。

4 自己紹介をする（2時間）

単元を通して慣れ親しんだ表現を使い、相手意識をもって自己紹介ができるようにするとともに、友達の自己紹介にしっかり耳を傾けて聞き取れるようにする。STORY TIMEでは、Kazuが自己紹介をしている場面が絵本の最初のページに示されている。今後のストーリー展開への期待を膨らませたい。

ダウンロードしたファイルをホームページ上に転載するなどして不特定多数が閲覧できるようにすることや許可なく出版物等に転載すること、営利目的で利用することを禁止いたします。

Let's Watch and Think 1

世界で活躍する日本人についてデジタル教材で視聴し、聞き取れたことや分かったことを発表する。

- ★ 児童と教材との初めての出会いを大切に、いきなり視聴するのではなく、見開きページを見ながらこれからの学習への主体的な関わりができるようにしたい。誌面に見られる人物を知っているか、どのようなことをしている人物か、など児童の興味・関心を高めてから視聴するとよい。
- ★ デジタル教材で、科学やスポーツの分野で活躍する5人について視聴するが、教科として初めて聞く英文としては難しい。全てを聞き取ることが目的ではない。教科として学習を進めるとこんな英語も理解できるようになると児童の期待を膨らませたい。児童の自信を損なうことのないように留意する。
- ★ 全てを一度視聴してから、今度は再び一人ずつの紹介を視聴し、どんな知っている言葉が聞こえたかを問いかける。速いスピードの英語でも聞き取れる言葉があったことを、十分褒める。
- ★ 5人の周りのイラストは、日常生活で英語を使う場面である。左ページ上から、⑥スーパーのレジでの買い物客と店員との会話である。最後にHave a nice day.と投げかけていることに注目したい。⑦地域によっては、外国籍の児童が多く在籍している学校もある。グローバル化が進むにつれ、どの地域でも今後そのようなことが増えてくる可能性は大いにある。⑧プラットホームでの駅員と乗客の会話であるが、見知らぬ地域でこのように親切に対応してもらった児童自身の経験と重ね合わせたい。⑨中学校での英語の授業は、基本的に英語で進められる。児童に中学校にあこがれをもって進学させたい。右ページ上から、⑩日本の観光地を説明している場面である。⑪社内での使用言語を英語にしている企業も増えてきていることも伝えたい。⑫タクシー運転手と外国からの観光客の会話では正確に聞き取り伝えることが必要となる。
- ★ 視聴を通し、自分も英語を話したり聞いたり



スクリプト

Let's Watch and Think 1

- ① Dr. Yamanaka Shinya is a professor at Kyoto University. He received the Nobel Prize in 2012. He studies about iPS cells. (山中伸弥教授)
- ② Kawasumi Nahomi is a pro-soccer player. She won the World Cup and she also got a silver medal in the Olympic Games as a member of Nadeshiko Japan. Now she is playing for Seattle Reign FC in America. (川澄奈穂美選手)
- ③ Tani Mami is a triathlete now. She is a paralympian. She lost her left leg when she was nineteen. Then she went to the Paralympic Games in Athens, Beijing and London. She was a long jumper. (谷真海選手)
- ④ Ishikawa Kasumi is a table tennis player.



Let's Watch and Think 映像を見て、世界で活やくする日本人について、知ろう。また、日本で英語が使われている場面を見てみよう。

- She won a bronze medal in the Rio de Janeiro Olympics. Her father, mother and younger sister play table tennis, too. (石川佳純選手)
- ⑤ Nagatomo Yuto is a pro-soccer player. He is from Ehime. He played for FC Tokyo from 2007 to 2011. Now he plays in a foreign country. He is very popular in and outside Japan. (長友佑都選手)
 - ⑥ 店員：How much?
客：It's 760 yen.
店員：Here you are.
客：Thank you very much. Here's your change.
Have a nice day.
 - ⑦ 児童1：Hi, Ken.
児童2：Hello, Juan. Hi, Maria.
児童3：Good morning. Let's go to the ground and play dodgeball.
児童1, 2：OK. Let's go.

たりできるようにしたい、外国の人を助けたり役に立ったりしたい、外国の人と友達になりたい、自分が海外に行ったときこんなふうに助けてもらったならうれしいだろうなどと、期待を膨らませて、外国語（英語）学習のスタートをさせたい。

指導者の表現例

Let's start our first English lesson!
(初めての英語のレッスンを始めましょう!)

This is your new textbook.
(これがみんなの新しいテキストです。)

How do you like it? (どうですか。)

Open your textbooks to pages 2 and 3.
(テキストの2ページと3ページを開きましょう。)

初めての授業での会話を紹介しています。

QR

- ⑧ 駅員：Please go to platform number 3. Take the yellow train. Midori Station is the third stop from here.
観光客：Thanks.
- ⑨ 先生：Good morning, class.
児童：Good morning.
先生：How are you today? Let's start our English class.
First, let's chant.
- ⑩ 観光ガイド：Please look at the tower in front of us. It's Tokyo Skytree. It was built in 2012 and it's 634 meters high.
観光客：Uh-huh. (写真を撮っている)
- ⑪ 司会：Good morning, ladies and gentlemen. Please take a look at your handout. Any questions?
- ⑫ タクシーの運転手：Where would you like to go? Asakusa? All right. It takes about 15 minutes from here.

ダウンロードしたファイルをホームページ上に転載するなどして不特定多数が閲覧できるようにすることや許可なく出版物等に転載すること、営利目的で利用することを禁止いたします。

Let's Listen 1

登場人物が話す音声を聞き、何が好きかを聞き取って線で結ぶ。

- ★ 最初は一人の情報を聞き取り、一度全員で答えを確認し、やり方を理解させたうえで進めるとよい。
- ★ 児童の実態に合わせて、何度も止めたり繰り返して聞かせたりするなど、聞かせ方を工夫する。

Let's Play 1

先生の好きなものを予想し、書き込んだあとに質問して先生の答えを確認する。

Let's Play 2

ペアの友達に四つの質問をし、その答えを表に記入する。

- ★ まず、児童は指導者の好きなもの（色、食べ物、テレビ番組、スポーツ）について予想し、誌面の表に記入する。日頃の指導者の様子から児童はさまざまに予想し、その予想が当たっているかどうかを知るために質問するという必然性を作る。
- ★ 全員で指導者に What ~ do you like? と質問を繰り返す。本活動のねらいは、これらの表現を繰り返し聞いたり言ったりすることで表現について理解を深めることである。同様に友達の好みも予想し質問し合う。

Let's Listen 2

それぞれの登場人物が話す音声を聞き、聞き取った情報を誌面に記入する。

- ★ 情報を書きとめる活動のため、児童によって差が出るのが考えられる。学級の実態によって、全体を通して聞いたあと、全員で聞こえた情報を一度確認し、みんなが容易に取り組める活動にしてもよい。
- ★ まとまりのある話を聞く活動に慣れるため、学級の実態に合わせて、最初に全体を

Let's Listen 1 登場人物がどのようなものが好きかを聞いて、線で結ぼう。

1

Kosei

2

Saki

3

Satoshi

4

Aoi

猫

ハンバーガー

将棋

野球バット

葉物

チョコレート

ピーマン

バナナ

Let's Play 1 先生の好きなものを予想してたずね、表に書こう。

Let's Play 2 友だちの好きなものを予想してたずね合い、表に書こう。

	 colors	 foods	 TV programs	 sports
先生の好きなもの 予想				
回答				
あなたの好きなもの				
友だちの好きなもの				

4

スクリプト

Let's Listen 1

- Hi, I'm Takada Kosei. K-O-S-E-I. Kosei. Nice to meet you. I like hamburger steaks. They are yummy. Do you like hamburger steaks? I don't like lettuce. I like basketball!
- Hello, I'm Yamamoto Saki. S-A-K-I. Saki. Nice to meet you. I like chocolate and bananas. They are good! I don't like carrots. Do you like carrots?
- Hello, I'm Yoshida Satoshi. S-A-T-O-S-H-I. I'm Satoshi. Nice to meet you. I like blue. I like *shogi*. It's fun. I don't like green peppers.
- Hi, my name is Kimura Aoi. A-O-I. I'm Aoi. Nice to meet you. I like cats. Do you like badminton? I like badminton very much. I don't like onions.

QR

Unit 1

Let's Listen 2 登場人物と名前を線で結び、好きなものを聞いて、□に書こう。

1

Christina

2

Kenta

3

John

スポーツが好き、バレーボールが好き。黄色、花が好き。

犬、野球、茶色が好き。

けん玉、ピッツア、寿司、緑色が好き。

Let's Play 3 友だちの好きな色・食べ物・テレビ番組をたずね合い、わかったことを表に書こう。

名前	 colors	 foods	 TV programs

5

Let's Listen 2

- クリスティーナ：Hello, my name is Christina Garcia. I'm Christina.
先生：Hi, Christina. How do you spell your name?
クリスティーナ：C-H-R-I-S-T-I-N-A. Christina.
先生：Thank you, Christina. What do you like?
クリスティーナ：I like sports. I like volleyball very much. I like yellow. I like flowers.
- ジョン：Hi, my name is John. John Wilson.
Nice to meet you.
先生：John, how do you spell your name?
ジョン：J-O-H-N. John.
先生：Thank you, John. What do you like?
ジョン：I like *kendama* very much. I like pizza and *sushi*. Japanese food is good! I like green.
- けんた：Hi, I'm Kenta. Nice to meet you.
先生：Kenta, how do you spell your name?
けんた：K-E-N-T-A. Kenta.
先生：Thank you, Kenta. What do you like?
けんた：I like dogs. I like baseball very much. I like brown.

QR

指導者の表現例

Let's listen to the CD.
(CDを聞きましょう。)
What did you hear?
(何が聞こえましたか。)
Anything is OK.
(どんなことでもいいですよ。)
Tell me anything you heard.
(聞こえたことを何でもいいので教えてください。)
Baseball? Do you think so, too?
(「野球」と聞こえましたか。〈挙手しながら〉そう思う人?)

リスニング活動の際、聞こえた情報を共有するための会話を紹介しています。



けんた：K-E-N-T-A. Kenta.
先生：Thank you, Kenta. What do you like?
けんた：I like dogs. I like baseball very much. I like brown.

ダウンロードしたファイルをホームページ上に転載するなどして不特定多数が閲覧できるようにすることや許可なく出版物等に転載すること、営利目的で利用することを禁止いたします。

Let's Listen 3

3人の登場人物の話を読み、それぞれが欲しいと言っているものを聞き取る。

- ★ 音声は、登場人物の子供と先生の会話になっている。その会話から必要な情報を聞き取って誌面に書く活動である。
- ★ 全体をみんなで聞き、聞き取れた単語を確認しながら指導者が板書してもよい。
- ★ 次に個々に聞き取りをする。何度か音声を止めたり、あるいは繰り返し聞かせたりすることで、全員が自信をもって聞けるように丁寧に指導したい。

Let's Play 4

友達が今一番欲しいと思っているものを、インタビューで調査する。

- ★ どのような状況で何を欲しいと思っているか、あらかじめ指導者が場面を想定するとよい。(誕生日、今の持ち物が古くなったもの、など)
- ★ 児童が主体的に聞こうとするように、自分と同じ思いの友達が何人いるだろうかと考えさせ、その予想のもとにインタビューすることも考えられる。
- ★ インタビュー後は、結果を共有し、ほかの児童とは違うものが欲しいと言った児童にはその理由を発表させることで、互いの理解が進む。

Let's Watch and Think 2

デジタル教材を視聴し、登場人物のやり取りから分かったことを誌面に記入する。

- ★ 会話の内容は、既習表現を活用しているだけであるが、二人が互いに質問し相手が答えたことをもとにさらに会話を進めており、その会話から必要な情報を聞き取って誌面に書く活動である。そのため、音声による情報だけでは理解しにくいことから、表情やジェスチャーを伴う動画としている。やり取りの様子から、表情やジェスチャーの大切さも感じ取らせたい。

Let's Listen 3 登場人物がどのようなものがほしいかを聞いて、空らんに入ろう。

新しいボール、茶色の帽子が欲しい。野球が好き。

新しいバドミントンのラケットが欲しい。猫が好き。白い猫が欲しい。

新しいバスケットボールシューズが欲しい。青いTシャツが欲しい。バスケットボールが好き。

Kenta Aoi Kosei

Let's Play 4 ほしいものを予想してたずね合い、それがほしい友だちが何人いるか、表に書こう。

ほしいもの	数	名前

6 b

Unit 1

Let's Watch and Think 2 映像を見て、登場人物の好きなものや好きなこと、ほしいもの、持っているものなど、わかったことを空らんに入ろう。

新しい緑色のけん玉が欲しい。緑色が好き。

青が好き。青いけん玉を持っている。

John Satoshi

サッカーが好き。新しいサッカーボールが欲しい。

サッカーが好き。新しいサッカーボールが欲しい。

Laksh Saki

黄色が好き。黄色いかばんと新しいバレーボールが欲しい。

青が好き。バスケットボールが欲しい。

Christina Kosei

7

スクリプト

Let's Listen 3

① 先生：Kenta, what do you want?
 けんた：I want a new ball.
 先生：A new ball?
 けんた：Yes. I like baseball.
 先生：Oh, I see. That's nice.
 けんた：I want a brown cap, too.
 先生：I see.

② 先生：Aoi, what do you want?
 あおい：Ummm, I want a new racket.
 先生：A racket? Do you want a tennis racket?
 あおい：No, no. I want a new badminton racket.
 先生：I see.
 あおい：I like badminton. I like cats, too.
 先生：Oh, do you like cats?
 あおい：Yes. I want a white cat.



③ 先生：Kosei, what do you want?
 こうせい：I want shoes and a T-shirt!
 先生：Oh, really?
 こうせい：Yes. I like basketball. I want new basketball shoes. I like blue. I want a blue T-shirt.
 先生：OK, thank you.

Let's Watch and Think 2

① さとし：I like blue. What color do you like, John?
 ジョン：I like green. I want a new green kendama. Satoshi, do you have a kendama?
 さとし：Yes, I do. I have a blue kendama.
 ジョン：That's nice.

② さき：Hi, Laksh. I like soccer. Do you like soccer?
 ラクシュ：Yes, I do. I like soccer very much. I want a new soccer ball.
 さき：A new soccer ball?

- ★ 一人ずつの発話を確認し、答え合わせでは動画と一緒に言わせるとよい。また、さらに慣れれば、音声を消して、「アフレコをしましょう」と登場人物になり切らせてりふのように言わせる活動も楽しい。

指導者の表現例

What do you want for your birthday?
 (誕生日には何が欲しいですか。)
 I want a new computer.
 (私は新しいコンピューターが欲しいです。)
 Who wants a new (book / bicycle / soccer ball / dress / baseball bat / pencil case)?
 (新しい〈本・自転車・サッカーボール・洋服・野球のバット・筆箱〉が欲しい人は誰ですか。)
 I want a new friend.
 (新しい友達が欲しいです。)
 I want many friends around the world.
 (世界中に友達が欲しいです。)

wantの表現を使い発話を引き出すとき、先生がいくつか例を挙げることで発想を広げる表現例を紹介しています。



ラクシュ：Yes. Do you have a soccer ball, Saki?
 さき：No, I don't. I want a soccer ball, too.

③ こうせい：Hi, Christina.
 クリステイーナ：Hi, Kosei. Wow, your blue bag is nice. Do you like blue?
 こうせい：Yes, I do. How about you?
 クリステイーナ：I like yellow very much. I want a yellow bag. I want a new volleyball, too.
 こうせい：Do you like volleyball?
 クリステイーナ：Yes, I do. How about you?
 こうせい：No, not really. I like basketball. I want a basketball.

ダウンロードしたファイルをホームページ上に転載するなどして不特定多数が閲覧できるようにすることや許可なく出版物等に転載すること、営利目的で利用することを禁止いたします。

Unit 1
Unit 2
Unit 3
Unit 4
Unit 5
Unit 6
Unit 7
Unit 8
Unit 9

Activity

本単元で学んだ表現を使い、自己紹介をする。


- ★ 児童はテキストの誌面を使って伝えたい情報を整理する。
- ★ 全員が同じ表現のフォーマットを使う必要はなく、これを伝えたいという情報を選んでよいことにする。児童によっては、数多くの文を使って自己紹介するのが苦手な場合もあるので、そのときは、数文でもしっかり相手意識をもって伝えればよいことを伝える。
- ★ 主体的な発表ができるよう、ペアで練習をしたあと、お互いにアドバイスを交わし、よりよい発表の方法を児童に考えさせるとよい。
- ★ 全員の前で発表する場合には、聞き手も積極的に参加するよう指導する。例えば、Hello!と発表者がスタートするのに対して、Hello!と全員が返すなどするとよい。
- ★ これまで質問に答えるやり取りの形で好きなものやこと、欲しいものを伝え合ってきた。ここでは、やり取りではなくスピーチの形をとる。そのため、挨拶→名前→好きなものやこと・欲しいものなどを言う→挨拶という流れをとるが、この流れが初めてであることから、8ページの誌面を実物投影機で示しながら発表する、あるいは、この誌面をもとにポスターを作成し、それを見せながら発表するなど、児童の実態に応じて工夫をすることが大切である。


STORY TIME


絵本の読み聞かせを通して、読むことに慣れる。


- ★ Kazuを主人公とした物語がこのページから始まる。自己紹介として、犬や猫が好きだということと、サッカーと野球が好きだということを言っている。これから始まる物語へのわくわくする予感を児童に感じさせたい。文字で書かれた以外の情報も絵で示されている。これ以降、全単元の最後のページに物語が設定されていることも告


Activity 好きなものやほしいものを□に書いて、自己紹介をしよう。

colors 

sports 

animals 

TV programs 

foods 

Hi, my name is Kazu.
I like cats and dogs.
I like soccer and baseball.

WORD LISTの語を使ってみよう。

スクリプト

STORY TIME

Hi, my name is Kazu.
I like cats and dogs.
I like soccer and baseball.

Small Talk

先生：Hello, everyone. My name is Takeshi. T-A-K-E-S-H-I, Takeshi. Nice to meet you. I'm from Takayama. I like pizza. Pizza is delicious. I don't like sweets. I don't like candy. I don't like chocolate. How about you? What food do you like?
児童1：I like sweets. I like chocolate very much.
先生：Oh, you like chocolate? How about colors? I like blue. What color do you like?
児童1：I like blue.
先生：Oh, me too.

Unit 1

STORY TIME

Hi, my name is Kazu.
I like cats and dogs.
I like soccer and baseball.

<絵本の読み聞かせの際の留意点>

- ★ 絵本を読み聞かせる際には、一方的に絵本の台詞を読むのではなく、児童と各ページにあるさまざまなイラストや筋についてやり取りしながら読むようにする。そうすることで、児童の絵本の筋についての理解を助けるとともに、児童を絵本の世界に引き込むことができる。
- ★ 高学年で扱っている絵本のページに記されている台詞は、やがて児童が読み聞かせを聞きながら絵本の台詞を指で追って聞いたり、自分で読むことに挑戦したりすることを想定し、短く単純なものにしている。よって、指導者が台詞以外の言葉をより使ってやり取りを行い、児童の想像を膨らませることが大切である。
- ★ 指導者は、ジェスチャーを付け、表情豊かに読む。これらも児童にとっては、物語の筋を理解するうえで大切な情報源となる。

げる。

- ★ この絵本は、毎単元のページを合わせると一つのストーリーになっている。主人公のKazuが学校にやって来た転校生のMariaと英語を通して仲良くなっていく筋である。実際に外国の子供が転校してくることはあり得ることであり、グローバル化がますます進む中、そのような状況は今後増していくと思われる。
- ★ この絵本のページは、児童に読ませなければならぬわけではない。ただ、文字を追いつつ、読み聞かせを聞くという体験が、やがて自分で読むことにつながっていくと思われる。そのためにも、この絵本との出会いを楽しいものにした。そこで、読む際に、指導者は、絵本にある英文を一方的に読むのではなく、児童の様子を見ながらページにある絵などを指さし、問をあげたり繰り返したりしながら読むとよい。また、ページにあるさまざまな絵や読んだ内容について児童に質問を投げかけるなどしながら、児童を絵本の世界に引き込むようにすることが大切である。また、付属のデジタル教材を活用したり、ALT等が読み聞かせをしたりしてもよい。その場合でも、児童とやり取りをすることが大切である。

指導者の表現例

Make pairs and do your self-introduction. (ペアになって自己紹介しましょう。)
Listen to your friend's speech. (友達のスピーチを聞きましょう。)
Give some advice. (アドバイスをしなさい。)
We will have "Speech Time" today. (今日はスピーチ・タイムをします。)
Let's welcome Takada san. (高田さんにしてもらいましょう。)
Let's give him / her a big hand! (拍手！)

スピーチをする前の表現例を紹介しています。スピーチ・タイムの最初に、指導者が映画の撮影場面などでよく使われる、3. 2. 1. Action. というキューを使うとメリハリをもって発表活動を進められます。